

町田第三小学校跡地活用ワークショップ

開催レポート

10月19日(土)、町田第三小学校(町三小)のランチルームで、町田第三小学校跡地活用ワークショップを開催しました。

市が2021年5月に策定した「町田市新たな学校づくり推進計画」にもとづく学校統合により、2028年3月に町三小は閉校となります。その跡地の未来を考える全3回シリーズのワークショップの第1回目この日、15名の方にご参加いただきました。参加者には、地域で活動されている方や町三小を約60年前に卒業された方、子育て世代の方、現役の小学生といった多世代が集まり、アットホームな雰囲気の中での開催となりました。

■ 2022年度から町三小の跡地活用の検討をスタート！

市から、本町田地区に新しくできる本町田ひなた小学校の検討と同時に町三小の跡地活用の検討を2022年度にスタートしていることや跡地活用検討の前提となる基本的な考え方、これからの進め方、今回のワークショップの目的などを参加者に説明しました。

町三小は学びの場としてだけでなく、学校開放や地域行事などの地域の活動の場であったり、災害時の避難施設となっているなど、地域にとっても身近な場所です。

学校跡地検討の基本的な考え方では、「地域にとって必要な機能は、新しくできる学校や周辺施設に引き継いでいく」ことを前提に検討を進めますが、避難施設の機能については、町三小跡地で引き継いでいくことをお伝えしました。



■ 3グループに分かれた学校探検で町三小の魅力を発見！

全体説明の後、1～3組の3グループに分かれて町三小の敷地を実際に見て回りました。真夏を記録するほどの暑さにみまわれながらも、起伏に富み自然が豊かな町三小を、探検のポイントが書かれた「探検マップ」を手に探検しました。町三小に詳しい参加者の方のお話も聞きながら、発見した町三小の魅力を思い思いに手元の地図に書き込んでいきました。



■ランチルームに戻り、話し合いがスタート！

学校探検が終わり、ランチルームに戻ってよいよ話し合い（グループワーク）開始です。「町三小の魅力を見つけよう」、「町三小跡地で将来やってみたいこと」の2つのテーマで、意見や思いをお互いに出し合いながら、まとめていきました。

参加者のみなさんが3組に分かれて意見を交わしながら、町三小跡地の未来を考えました。どのグループでもテーブルに準備されたお菓子をつまみながら、終始和やかな雰囲気でありつつも、真剣に跡地の未来を考えている様子でした。



■共通点を持ちながらも、個性あふれる各組のアイデア

1つめのテーマである「町三小の魅力」については、『高台にあり見晴らしが良く、自然が豊かである』といったことや、『地域の中心的な場所である』といった意見がどの組にも共通していました。

2つめのテーマである「町三小跡地で将来やってみたいこと」については、『敷地の高低差といった特徴をマイナスに考えず、むしろそれを活かした空間にする』という意見や、『地震や水害をはじめとする災害時にも避難できる機能を確保する』といった意見は3グループに共通しつつも、どのような活動が生まれる場所にしたいかについては、それぞれグループごとの個性が出ていました。

1組 地域のランドマーク、地域のつながりの場

◇「町三小の魅力」 ～地域のランドマーク～

1組では、『町三小は高低差があり、敷地の形があまりよくないので、土地の活用は工夫が必要だけど、自然・緑が豊富であることが魅力』といった意見にはグループのメンバーもうなずいて共感していました。また、『この場所は高台にあり遠くからも目立つランドマークのような場所であり、地域をつなげる役割を果たしている』という発言は、この地域の方のこの土地に対する思いを象徴づけるような意見となりました。他にも、『タケノコが採れる』こと、『歴史がある』こと、『遊具があり、坂などでも運動ができる』ことも魅力としてあげられていました。



◇「町三小跡地で将来やってみたいこと」 ～地域のつながりの場～

地域で集まる場や不登校児を含めた子どもの居場所など、町三小跡地を「地域のつながりの場」とするためのアイデアがたくさん出されました。その他にも、豊かな自然環境と敷地の高低差を利用したアスレチックやタケノコ掘りイベントなど、「遊び・体験の場」といった楽しみながら学ぶアイデアもたくさん出ていました。

2組 コミュニティの中心、世代間交流が生まれる場所

◇「町三小の魅力」 ～コミュニティの中心～

2組は、ほとんどのメンバーから、校庭のある場所は『高台にあって日当たり、見晴らしがよい』、『高台の地形と敷地の高低差が魅力』といった意見がでていました。その他にも、『地域のコミュニティの中心である』ことや、『敷地内のタケノコなど自然豊かな環境が魅力』といった意見もあげられていました。

◇「町三小跡地で将来やってみたいこと」
～世代間交流が生まれる場所～

子どもが自由に遊ぶことができたり、親も昼寝ができたり、気軽に休める場所といった意見や、大人と子どもと一緒に何かできるような「世代間交流が生まれるような場所」にしたいというアイデアが出されていました。現役の小学生や子育て世代、地域で活動されている方など様々な世代の方が集まった今回のワークショップならではのアイデアでした。

【町三小の跡地で将来やってみたいこと】
○2組では、前半で議論した町三小の魅力を活かして将来やってみたい、いろいろなアイデアが集まりました。

災害対策の場 防災・キャンプ ■地震にも水害にも対応できる場所 ■避難施設を兼ねたキャンプ場 ■恩田川の水を災害時に利用する	川で遊ぶ 恩田川を活用 ■川遊び アスレチック・公園 ■高低差を活かしたアスレチック 高低差を活かす	高齢者が楽しめる場所 ■高齢者が楽しめる場所 世代間交流の場所 ■大人と子どもが一緒に何かできるような施設 コミュニティセンター
ゆったり過ごせるアウトドア広場 ■空を見られる広場 ■流石者の観察会 ■ポーツとすする大会 ■屋外ピクニック・キャンプ ■静かに読書 ■日なたで寝る	広場の使い方 いろいろな使い方ができる場所 ■みんなが使える公園・広場 ■球技や花火などでもできる自由な場所 ■盆踊りや祭りなど地域の活性化につながることもできる場所 ■遊園地	ママも安らげる子育て施設 ■子育て支援施設 ・児童館や子ども食堂など、子育て支援につながる場所 ■お昼寝の場所 ・子どもだけで来ても昼寝できるなど、親が自由になれる場所 ・育児中の親の孤立化を防ぐ ・子どもたちが安全に遊べる場所
農や食の体験 農や食が体験できる場所 ■竹のこ割りや焼き芋大会など、食育 ■大人と子どもで農作物を育てる畑	周辺とつながる	ひなた村と連携する 敷地の中を通り抜けられる ■小学校の南側から北側へ行くときなど、敷地内を通り抜けられると良い

3組 竹・森、自然に囲まれた環境、誰もが思い思いに過ごせる場所

◇「町三小の魅力」 ～竹・森、自然に囲まれた環境～

3組は、敷地周辺や斜面を覆う『竹林や森、自然に囲まれた環境が、落ち着いた雰囲気がある』など、自然がこの場所の魅力といった意見がたくさんあげられていました。その他にも、『子どもが安全に遊べそうな場所』、『高台にあって見晴らしがよい立地』、『高低差があるからこそ2つの敷地を確保できる』、『斜面だからこそいろいろな使い方ができそう』、『歴史のある地域』などの魅力があげられていました。

◇「町三小跡地で将来やってみたいこと」
～誰もが思い思いに過ごせる場所～

「校庭部分を誰もが思い思いに過ごせる屋外スペースとして活用する」といったアイデアが出されていました。ボールも使える運動広場でありつつも、お祭りやフリーマーケットなど地域のイベ

【町三小の跡地で将来やってみたいこと】
○3組では、前半で議論した町三小の魅力を活かして将来やってみたい、いろいろなアイデアが集まりました。

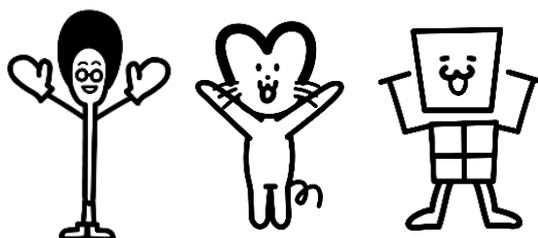
災害時にも活用できる室内空間 ■簡易な体育館 災害時の避難場所 エアードーム型？ ■本町田の歴史資料館+地域活動の場 各家庭にある歴史資源の保管、地域の歴史・町三小の歴史を体験学習 地域の活動の場も兼ねる	低地 万が一の水害でも被害が少ない活用を ■スケボー広場、プレロー広場(アスファルト敷設) ■バスケットゴール ■ドックラン(芝生を活用)
多世代で集まる空間 ■子どもとお年寄りの食堂 「ワタミなど民間参入で、収益」	斜面:遊び・癒し 斜面を活かした活用を ■本町田の花壇 花壇をつくり、周りを散策路 ■大すべり台 近くに既存の遊具を移設して再利用
誰でも、いつでも、遠方からもアクセスできる環境づくり ■コインパーキング 高齢者、障がい者、小さな子ども連れも利用できる！収益もみこめる	校庭:思い思いに過ごせる場 広さを活かして、みんなで活用できる屋外スペース ■運動広場 ボールが使える広場 小学生用のサッカー ゲートボール マレットゴルフ ■みんなで集まることのできる場所 イベント フリーマーケット お祭り 運動会 ■アスレチック
校門近くは駐車場	校庭脇:健康維持・くつろぎ 高齢者の健康維持 ■健康器具の設置 ■ベンチで休憩 ■リハビリ施設 民間事業者参入による収益も
高台を活かした物見塔 ■四方を見渡せる物見塔	子ども達が自由に集まり遊べる場を ■学童保育の代替施設 子どもをサポートする機能とセット

ントの場としても活用できるようにしたいなど、「みんながやりたいことをやれる場所」、「ここに来れば楽しいと思える場所」にしたいという思いが溢れたアイデアが出ていました。

また、3組では、施設を運営していくにはお金がかかるので、一部をコインパーキングにするなどして、運営費を生み出す必要もあるといった先を見越したご意見もありました。

■ 最後は各組の意見発表！

ワークショップの最後には、各組でまとめた意見の発表です。各組代表の発表者を中心に、みんなで考えた跡地の未来を共有しました。他の組がどんなことを考えていたのか気になる様子で、参加者の方々はお互いに興味深く発表を聞いていました。



町田市公共施設再編キャラクター
まちおさん まちにゃん まちロボ

■ 第2回の町三小跡地活用ワークショップは？

第2回の町三小ワークショップでは、第1回のワークショップでたくさん出た「町三小跡地で将来やってみたいこと」のアイデアについて、地図やイメージ写真などを使いながら検討を深めていきます。

町三小の敷地図と同寸大のアイデアのあった施設などのイメージ写真を準備して、実際にその敷地図に配置しながら、具体的な空間の使い方を検討します。どのような活用アイデアに育っていくのか楽しみです。

第2回は12月14日(土)の開催を予定していますが、今回のようなアットホームな雰囲気、寒さも和らぐ楽しいワークショップを期待です。



お問い合わせ

町田市政策経営部企画政策課 公共施設再編担当

電話：042-724-2103

メール：mcity2980@city.machida.tokyo.jp

